

日本でも年末にその年の流行語が発表されますが、中国でも同じように10大流行語というのが発表されるようです。今回は、その中の一つに選ばれた「工匠精神(=職人の精神(気質))」ということについて考えてみたいと思います。

平成 29 年 1 月 11 日

【第 1 1 回】2016 年の流行語「工匠精神」と本市の伝統工芸品の中国市場への挑戦について

【今日のポイント】

- ◆「工匠精神」とは、納得できるまで自らの事業に専念し、精巧にモノを作り、顧客に良い製品やサービスを提供すること。
- ◆ 昨年 3 月の全国人民代表大会(中国の国会にあたる)で、李克強首相の政府活動報告の中で初めて登場し、その後、中国国内の製造業の競争力強化のキーワードとして語られることが特に多い。
- ◆ 「工匠精神」が語られる中で、日本の伝統文化・伝統工芸品やその職人についての関心が高まっている。
- ◆ 上海事務所では、来たる 1 月 22 日に在上海日本領事館で、茶道、書道の日本の伝統文化と、北九州市の伝統工芸の体験交流会を行い、領事館のネットワークなどを活用し、北九州市とそこで育った職人とその製品の PR を行います。

1 「工匠精神」が流行語になった背景

李克強首相が、昨年 3 月の全国人民代表大会の政府活動報告で「工匠精神」に言及したのがきっかけでした。文脈としては、実体経済の活性化の一環として、自らの事業に専念し、製造業のイノベーションを図るべきだというようなものでした。

昨年 3 月以降、この「工匠精神」を語る中でメディアなどがよく取り上げるのが、日本の技術や職人のあり方です。

ロジックとしては、中国人観光客による爆買いツアーを例にとると、

「中国の賢い消費者は、モノの良し悪しを分かっている」

⇒「その消費者は中国国産品がダメだから、日本の優れた技術を求めている」

⇒「では、なぜ中国国産品はダメで、日本の製品は優れているのか？」

⇒「その答えのひとつが、妥協せず、念入りにひとつの仕事を長く続ける日本の「職人精神の伝統」ではないか？」

⇒「では、日本の職人精神って何だ？」というものです。

2 中国で取り上げられる「工匠精神」の例

「工匠精神」の例としては、日本の炊飯器の機能、ウォシュレットや薬・化粧品的生活用品から、銀座のすし職人、竹工芸、染物の職人まで幅広く挙げられています。

「工匠精神」の流行は、「世界の工場」と久しく言われてきながら、品質や技術力で勝負できる世界的なブランドがまだ現れていない現実への反省との解釈できます。その一方で、「工匠精神」をキーワードに、日本の伝統文化や工芸品への関心は確実に高まっているのも事実のようです。

3 本市の伝統工芸品の海外進出の挑戦

このように、日本の伝統文化や工芸品が注目を浴びつつある中、上海事務所では、1 月 22 日に在上海日本国総領事館で「北九州市・日本文化体験交流会」を行います。

ここでは、「北九州技の達人」の中から、産業経済局国際ビジネス政策課とともに発掘した、染織家の大野浩邦氏と組子細工の村本裕作氏の 2 人の職人が初めて上海に来て、それぞれが作った製品とその裏にある職人としての心構えなどを語っていただきます。今回は、単なる「モノ」の消費から、体験やストーリーなどの「コト」に関心が移っているとされる中国の富裕層に対し、製品そのものの精巧さ、斬新さだけではなく、その背後にあるモノづくりへの考え方やストーリーを訴求して、2 社の今後の中国での販路開拓につなげていきたいと目論んでいます。



大野氏：日本でただ一人の化粧まわしの手織り職人。その技術を活かして、革新的な布の開発に取り組んでいます。



村本氏：建具技術の最高峰の技術である組子職人。繊細な模様を活かした、現在の生活様式にマッチした雑貨なども開発しています。

また、当日は、日本の文化の代表である茶道・書道の先生も北九州市から参加されます。今回は、本市が誇る職人技とともに、本市と本市の伝統文化を中国の皆さんに幅広くお伝えしたいと思います。その結果をここでまた報告できるよう、職員 3 人で現在準備中です！！